

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	31人	算数	31人	理科	31人
第5学年	国語	39人	算数	39人	理科	39人

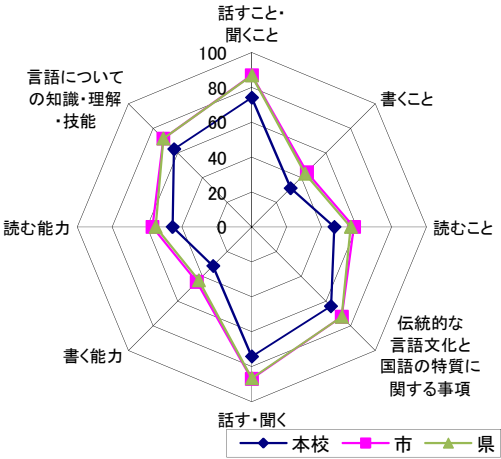
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	74.2	87.0	86.7
	書くこと	31.5	44.5	43.1
	読むこと	47.3	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.1	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	74.2	87.0	86.7
	書く能力	31.5	44.5	43.1
	読む能力	45.4	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	63.0	71.7	71.7



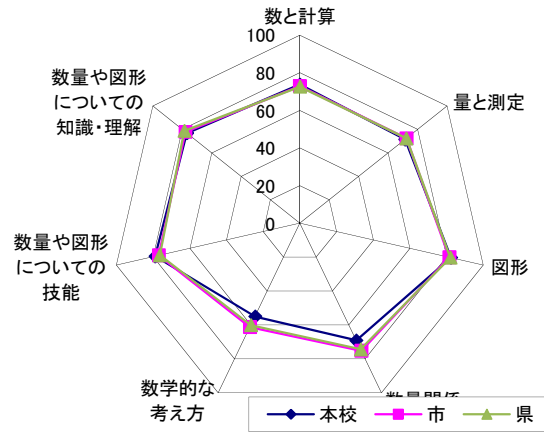
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の校内平均正答率は74.2%で、市の平均正答率87.0%よりも12.8%低い。特に、話し合いの内容を聞き取り、話の中心に気を付けて聞く設問の本校正答率は低かった。	・国語の授業や日常の1分間スピーチなどの活動の中で、話を聞いてメモを取る練習を繰り返し行い注意して話を聞きとる機会を増やすことで、内容を聞き取る力を身に付けていきたい。 ・授業の中に学び合いの活動を積極的に取り入れることにより、話す・聞く力を高めていきたい。
書くこと	●校内平均正答率は31.5%で、市の平均正答率44.5%よりも13%低い。 ●報告書の作成の問題で、書くこととすることの中心を明確にし、記述する設問では、校内正答率32.3%で、県正答率42.4%を10.1%下回っていた。 ●お礼の手紙を適切な順序と言葉づかいに書き直す設問では、校内正答率は12.9%で、県正答率25.2%を12.3%下回っていた。	・学校行事の後には作文を書かせたり、小作文や日記を書く機会も取り入れたりして、文章を書くことに慣れさせたい。 ・お礼状や招待状など、条件にあった文章を書くことの指導を引き続き行い、敬体の使い方も指導していく。
読むこと	●説明文の内容理解で、文と文のつながりに注意して文章を読み取る設問では、校内正答率は35.5%で、県の正答率44.3%より8.8%低かった。 ●物語の内容理解で、叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読み取る設問では、校内正答率は29.0%で、県の平均正答率52.5%より23.5%低く、課題が見られる。	・朝の読書の時間の充実や授業中・休み時間等の図書室の利用、さらに家庭での読書時間を呼びかけるなどして、読書の習慣化や読書量の確保を図っていく。 ・物語文や説明文については、教科書の教材文を丁寧に読み取った上で、似たような説明文・物語文のプリント問題も利用し、多くの問題にふれることで読解力を付けていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の書き4題出題の中で、②「相談」の設問では本校正答率71.0%で県正答率68.9%より2.1%高く、また、④「当たる」の設問では、校内正答率95.2%で県84.9%より10.3%上回っていた。 ○ローマ字の設問の正答率は高かった。 ●漢字の設問の校内正答率をみると、書きの設問より、読みの設問の正答率のほうが、県平均正答率より下回っていた。 ●主語と述語についての設問では、校内正答率は29.0%で県正答率63.6%より34.6%下回っており、課題が見られる。 ●漢字のへんとつくりなどの構成についての設問では、校内正答率は38.7%で県正答率52.5%より13.8%下回っていた。	・朝の学習の時間の漢字タイムでは、前学年で学習した既習漢字プリントを行っているが、引き続き実施していくことで漢字を書き取る力を高めていきたい。 ・主語と述語の関係や漢字の部首については、授業の中で再度丁寧に指導した上で、ワークプリントや小テストなどを行い、繰り返し学習することで定着させていきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.7	72.9	72.6
	量と測定	71.5	72.4	72.3
	図形	82.3	81.4	82.0
	数量関係	69.1	75.2	74.4
観点	数学的な考え方	55.0	61.3	60.1
	数量や図形についての技能	78.9	77.0	76.4
	数量や図形についての知識・理解	76.8	77.8	78.6



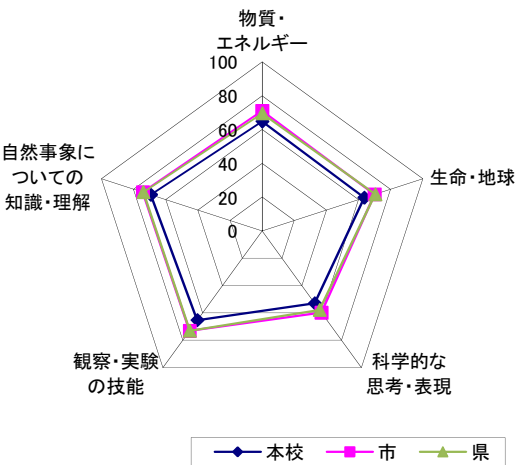
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○校内正答率は73.7%であり、県の平均との比較で1.1%高い。 ○3けた×1けたのかけ算や整数－小数の計算では、県の平均より10%以上高い。 ●「1を○個と0.1を△個あわせた数はいくつでしょう。」の問題では、校内正答率が県の平均と比較して14.3%低い。	・授業中の計算プリントや朝の学習の時間における計算タイムを通して、確実に計算力が身に付いているので、今後も継続して取り組ませていきたい。 ・小数のしくみについて、授業で再度指導するとともに、宿題プリントなどで十分理解させていきたい。
量と測定	○はかりの目盛を読む問題では、正答率が県の平均と比較して9.9%高い。 ●校内正答率は71.5%であり、市の平均との比較で0.8%低い。 ●「5kmは何mですか。」の問題では、正答率が県の平均と比較して13.0%低い。	・長さの単位であるkmやmについて、日常生活の中から課題を見つけ、長さに関する基礎的な知識を身に付けさせる。単位の変換における問題については、授業の中で繰り返し指導し定着を図っていく。
図形	○校内正答率は82.3%であり、市の平均との比較で0.3%高い。 ○正三角形の名称を答える問題に関しては、正答率が100%で県の平均と比較して8.1%高い。	・図形に関する定義など基礎的な知識は身に付いている。今後は、コンパスや三角定規を正確に使いこなせるようにするため、定期的に練習する機会を設け、技能も高めるようにしていく。
数量関係	●校内正答率は69.1%であり、県の平均との比較で5.3%低い。 ●棒グラフを読む問題では、正答率が県の平均と比較して16.8%低い。	・算数だけでなく、理科や社会、総合的な学習の時間など他の学習活動において、棒グラフで表された内容について考える場面を意図的に設け、しっかりと定着できるように努めていきたい。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.8	71.1	69.6
	生命・地球	63.6	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	52.9	59.8	57.8
	観察・実験の技能	65.3	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	69.3	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○風やゴムのはたらきに関する問題の校内正答率は、85.5%で市の平均を上回っている。風の強さのよって物の様子に違いが生じるかどうかの問題の校内正答率は93.5%で、市の平均を大きく上回っている。 ○電気を通す物を理解し、豆電球の明かりの付き方を説明する問題の正答率は、32.3%で市の平均より上回っている。 ●物は体積が同じでも、種類によって重さが違うかを問う問題は校内正答率38.7%であった。磁石の性質に関する問題の校内正答率も、市の平均を大きく下回っている。 ●磁石の性質に関する問題で、日常生活と関連づけて考える問題の校内正答率は48.4%で、市の平均よりも大きく下回っている。	・「物は体積が同じでも、種類によって重さが違うこと」などものと重さの関係を実験結果をもとに復習させ、定着を図る。 ・「同じ極は引き合い、違う極は反発すること」や「磁石の力は磁石につかない物が間にあっても働くこと」などについて復習させ、磁石の性質について理解させる。
生命・地球	○身近な自然の観察の問題の校内正答率は、53.8%と市の平均より0.7%下回っているが、県の平均よりは、0.1%上回っている。こん虫の生活場所の問題の正答率は77.4%で、市の平均より大きく上回っている。 ○太陽を観察するときに使う道具に関する問題の校内正答率は、90.3%で、市の平均よりも上回っている。 ●昆虫が特定の場所にいるかを問う問題の校内正答率は、38.7%で市の平均よりも大きく下回っている。 ●太陽と地面のようすに関連する問題の校内正答率は、54.8%と市の平均よりも下回っている。特に、方位磁針の使い方の問題の正答率は25.8%、温度計の目盛りの読み方の問題の正答率は35.5%で、市平均正答率を大きく下回っている。	・生物のすみかについて、食べ物や外敵などと関係付けて理解させる。 ・方位磁針や温度計が正しく使えるよう、今後も、使用する前に扱い方や注意点などを重点的に指導していく。 ・「一日の太陽の動き」「太陽と影の動き」について復習させ、太陽と反対方向に影ができることや、動きも反対になることを理解させる。

宇都宮市立上河内中央小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」と肯定的回答をした児童の割合は93.5%で、9割以上の児童が家できちんと宿題をすることができている。

●「家で、学校の授業の復習をしている」という質問に対して、肯定的割合が38.7%であり、宇都宮市(57.2%)と県(60.3%)を大幅に下回っていた。また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に対する肯定割合は32.3%であり、この質問も、宇都宮市(60.1%)と県(60.4%)を大幅に下回っている。この結果から、宿題はきちんとやっているが、自宅で宿題以外の勉強に取り組む習慣がまだ身に付いていないといえる。今後、授業の中での振り返り活動を充実させることで、自分の課題を見つけさせ、自主学習へ取り組んでいけるような指導が必要と考える。

○『総合的な学習の時間』の学習は好きですかの肯定的割合は90.3%であり、市や県の肯定割合より大幅に上回っていた。自分なりに調べたり、まとめたりすることに意義を感じ、積極的に取り組んでいることが分かる。

○「毎日、朝食を食べている」に対する肯定割合は90.3%であり、宇都宮市(89.9%)と県(87.2%)を上回った。この結果から、各家庭において、基本的な生活習慣の指導がなされていると考えられる。

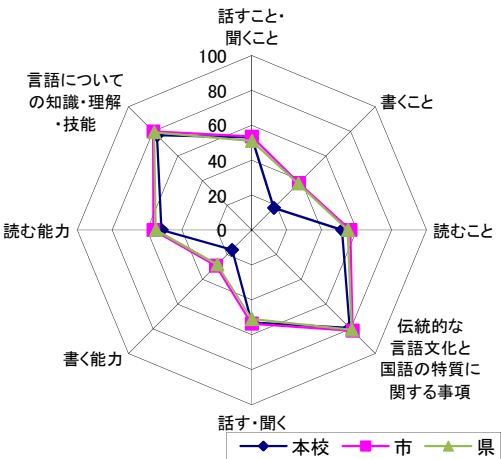
●平日のゲーム(テレビゲーム、コンピューターゲーム、携帯式ゲーム含む)に費やしている時間では、1時間以上が58.2%という結果で、宇都宮市(48.9%)と県(48.8%)を上回っている。テレビやビデオ、DVDを見る時間は、県や市と比べて少ないものの、その分ゲームに費やしている時間が多いのではないかと考える。学習や読書時間の確保につなげるためにも、家庭でのゲームのあり方について呼びかけていきたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からない時は、辞書を使って調べている」に対する肯定割合は38.7%であり、宇都宮市(69.4%)と県(70.2%)を大幅に下回っていた。また、「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」に対する肯定割合についても29.1%であり、宇都宮市(47.7%)と県(52.0%)を大幅に下回っていた。分からないことをそのままにしておくことは、学習内容の定着にも影響を与えることとなる。授業中は積極的に国語辞書や地図帳などを使って、分からないことはその場で調べる機会を多く作っていきたい。総合的な学習の時間やその他の学習活動でも、インターネットに触れる活動を多く設けていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	53.0	53.6	51.0
	書くこと	17.9	38.1	37.6
	読むこと	51.7	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.3	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	53.0	53.6	51.0
	書く能力	16.0	29.0	28.0
	読む能力	51.7	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	76.8	79.9	79.1



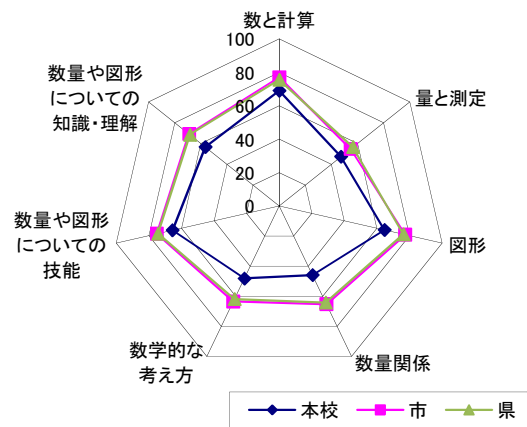
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容を聞き取ることにについては、市・県の正答率を上回っている。 ○「話し方の工夫に気を付けて聞くことができる」については、この領域の中で最も正答率が高かった。	・朝の1分間スピーチや国語でのスピーチ活動、他教科においての話し合い活動の中で、相手に分かりやすい話し方の工夫を常に意識させながら、より一層話す力を高められるように指導していく。
書くこと	●「与えられたテーマに対する記事を条件に合わせて書くこと」については、市・県の正答率を下回り、さらに33.3%が無回答という結果であった。	・学校行事の後の作文や朝の会の1分間スピーチ等の原稿、各教科の中でのめあてや振り返りなど文章を書く作業を積極的に取り入れ、書くことに対する抵抗感をなくすようにする。 ・型に沿って書かせたり、主語と述語の正しい関係を身に付けさせたりするなど、作文の基本的なスキルをしっかりと教える。
読むこと	●説明文の内容理解については、市・県の正答率をやや下回った。 ●物語文の内容理解については、場面の様子を叙述を基にして考え記述する設問や叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読み取る設問において、市・県の正答率をやや下回った。無回答率も高めている。	・説明文の学習では、「何がどのように書かれているか」を読み取る力をつけるため、語彙力をつける指導を行う。分からない言葉は、国語辞典ですぐに調べる習慣の徹底、家庭と共通理解を図りながらの漢字習得に向けての毎日の積み重ねなど基本的なことを行う。 ・物語文の学習では、日常から読書習慣を身に付けさせるために、朝の読書で物語を読んだり、家庭と協力しながら音読指導をしたりして継続的に指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「第3・4学年配当漢字を書くこと」については、市・県の正答率を上回った。 ●「第4学年配当漢字を読むこと」については、市・県の正答率を下回った。 ●言葉の学習で、慣用句の使い方や句読点の場所を問う設問において、市・県の正答率を下回った。	・習った漢字は、授業と家庭学習で繰り返し練習し、日記・作文の中で積極的に使わせ定着を図る。 ・日々の教育活動の中で、慣用句やことわざについて広く紹介し、生活経験の中でありがちな出来事と関連して捉えさせ、言葉について興味・関心をもたせる。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.0	77.0	75.6
	量と測定	47.4	54.8	56.5
	図形	64.7	77.4	76.3
	数量関係	45.9	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	48.2	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	65.5	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	56.6	69.1	68.4



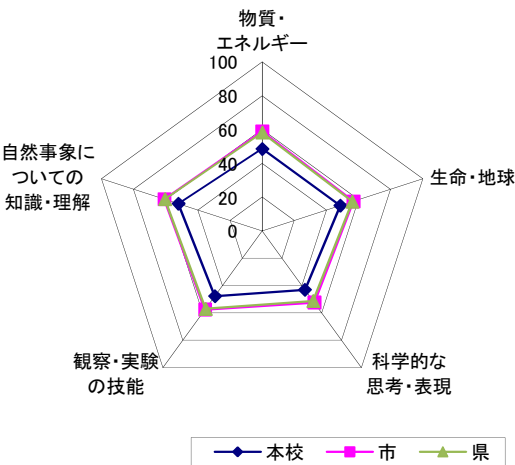
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○倍とわり算の文章問題を表した図を選ぶ問題では、79.5%であり、市平均より16.2%高かった。 ●数と計算の校内正答率は、69.0%であり、市平均と比べて、8.0%、県平均と比べて、6.6%低い。 ●「 $41.4 \div 18$ (割り切れるまで計算しましょう)」の問題では、校内正答率が46.2%であり、県平均と比べて、18.9%低い。	・具体物を使うなどしながら、小数の大きさの概念が理解できるよう、習熟を図っていく。 ・ $1/100$ の位までの小数 $\times$ 整数、 $1/10$ の位までの小数 $\div$ 整数 $= 1/10$ の位までの小数、などの計算の意味を理解し、計算の仕方について、個別に指導し、習熟を図っていく。 ・習熟度別学習や少人数指導を適宜取り入れ、一人一人の学習の実態に応じたきめ細やかな指導をしていく。
量と測定	○教室のおよその面積を求める問題では、県平均より4.0%高かった。 ●校内正答率は、47.4%であり、市平均と比べて7.4%、県平均と比べて、9.1%低い。 ●「1mは何cmですか」という問題では、県平均より17.2%低い。	・長方形、正方形の面積を求める公式を確実に覚えさせ、問題文から立式できるように習熟を図る。 ・面積の m^2 と cm^2 の関係など、単位を変換する作業を繰り返し指導し、日常生活にも活用させていく。
図形	○ひし形の作図の問題では、校内正答率は74.4%であり、県と比べて14.2%低いが、昨年の校内正答率と比べると21.1%高い。 ●校内正答率は64.7%であり、市平均と比べて12.7%、県平均と比べて、11.6%低い。 ●2本の対角線がいつも垂直に交わっている四角を答える問題では、校内正答率が53.8%であり、市平均より5.9%低い。	・基礎的な知識は身に付いているので、作図など表現することについては、コンパスや分度器の特性を理解させながら、普段から使う習慣を身に付けさせる。また、正確な作図の仕方について、個別指導していく。
数量関係	○正三角形の一辺の長さが2cm、3cmになった時の周りの長さを求める問題では、県平均より低いが、校内正答率は84.6%と比較的高かった。 ●校内正答率は、45.9%であり、市平均と比べて19.4%、県平均と比べて18.4%低い。 ●「乗ったことのある乗り物調べ」の表から、対称の欄の意味を説明する問題が、県平均より15.8%低い。	・日常生活において、統計をとる時に、折れ線グラフ等を意図的に活用していく。 ・家庭学習が計算練習に偏ることなく、表やグラフを読んだり、書いたりする作業にも意識して時間を取るようにする。 ・問題場面を理解し、問われていることを把握するために、文章中にマークなどを書き込む活動などを取り入れていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	48.6	59.0	58.2
	生命・地球	48.7	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	43.1	52.5	51.3
	観察・実験の技能	47.7	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	52.2	60.9	60.5



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○金属、水、空気と温度での金属の温まり方を推測することは、ほぼ県平均と同程度である。 ●物質とエネルギーでは、空気と水の性質で「とじこめた空気を圧すときの風船の体積を推測する」については、校内正答率20.5%で県の平均を大きく下回っている。また、「水が氷になると体積が増える」という問いの校内正答率は46.2%で県の平均を大きく下回っている。電気のはたらきでは、「電気の流れることを電流」ということは、校内正答率12.8%で県の平均を大きく下回っている。	●電気の流れることを「電流」ということや水が氷になると、体積が増えるということは基礎的な学習内容なので、復習させ、定着を図る。空気と水の性質では、風船の体積の変化を、水の体積の変化と比較しながら、基礎的な学習内容として定着させる。
生命・地球	○天気の様子「1日の気温の変化のようす」や「1日の気温の変化と天気の予測」は校内正答率87.2%・56.4%と県の平均と同程度である。 ●季節と生活では「秋ごろのツバメの様子」の校内正答率は38.5%と県平均を大きく下回っている。月と星では、「星座早見の月日と時間の合わせ方」が校内正答率35.9%と県平均を大きく下回っている。	●秋になってからのツバメの活動の様子がわかるように、一年間の変化をまとめ、学習内容の定着をさせる。星座早見の使い方については、使う前に扱い方や注意事項は何かなどもう一度復習させる。

宇都宮市立上河内中央小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業の復習をしている」という質問に対して、肯定的割合が76.9%であり、宇都宮市(61.0%)と県(63.4%)を大幅に上回っており、また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に対する肯定割合は76.9%であり、この質問も、宇都宮市(63.2%)と県(62%)を大幅に上回っている。この結果から、自宅で宿題以外の勉強に取り組む習慣がついてきていると考えられる。

●「学校の授業時間以外に、平日、一日当たりどれくらい勉強をしますか(学習塾や家庭教師も含む)」について、「1時間以上2時間未満」が35.9%と宇都宮市の割合(37.4%)と県の割合(39.1%)を下回っており、「30分以上1時間より少ない」が48.7%と最も高い割合となり、土日の家庭学習時間も、「1時間より少ない」と回答した割合が43.6%と最も高い割合となった。高学年になり、授業内容が難しくなっていくなかで、家庭での学習時間の確保が重要になっていくと考えられる。

●平日の一日当たりの読書時間については、10分以上30分未満が33.3%と最も高く、宇都宮市(27.3%)と県(27%)を上回っているが、1か月あたりの読書量に関しては、1～2冊の割合が最も高く(28.2%)、宇都宮市・県の肯定割合が最も高い冊数(それぞれ5～10冊・3～4冊)を下回っている。この結果から、読書の習慣は定着してきているので、読書量を増やす指導をしていく必要があると考える。

○「勉強について「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」について「はい」と答えた割合が82.1%と宇都宮市の割合(60.1%)と県の割合(55%)を大きく上回った。また、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」についても94.9%の肯定割合となった。この結果から、学習意欲が高く、進んで学習に取り組む児童が多いことが伺える。

○「毎日、朝食を食べている」に対する肯定割合は100%であり、宇都宮市(96.9%)と県(96%)を大幅に上回った。また「早寝、早起きを心がけている」に対する肯定割合も89.7%と、宇都宮市(81.8%)と県(80.5%)を上回った。この結果から、各家庭において、基本的な生活習慣の指導がなされていると考えられる。

○「見てはいけないサイトにつながらないようにしていますか？」に対して「はい」と答えた割合が61.5%であり、宇都宮市(42.8%)と県(43.3%)を大きく上回った。この結果から、ケータイ・スマホの使い方についてのルールが浸透してきていると考えられる。